

視察報告書

委員会名	建設産業常任委員会					
視察日時	平成26年10月10日(金) 10時00分～11時30分					
視察先	市町村名	一関市	人口	127,642人	面積	1256.25k㎡
視察項目	創業支援事業計画に関する調査					
視察参加議員	田原耕一、寺崎強、伊藤千代子、中村進、那須英仁、波多江貴士、藤井芳広					
視察随員職員	友岡卓也					

視察概要

一関市は、人口は本市とあまり変わらないが、面積が本市の約6倍でとても広大である。市内には平等院鳳凰堂や城下町など、観光名所が多く存在し、観光にも力を入れている。

2011年の震災では内陸部最大の被害を出し、4000～5000戸の家屋が倒壊し、橋・山林・田んぼの倒壊など被害総額は250億を超えるとのことであった。3年半を経てやっと復興してきているとのことであった。

また一関市は“近助(きんじょ)”と称し、近隣の自治体を支援されている。陸前高田市に12名、気仙沼市に2名の職員を派遣する他、産業支援として被災企業への土地提供、学校支援、仮設住居への土地提供などを行われている。

今回は、創業支援事業計画について視察を行った。これは国が「産業競争力強化法」に基づき認定する制度で、市区町村が民間の創業支援事業者(地域金融機関、NPO法人、商工会議所・商工会等)と連携し、ワンストップ相談窓口の設置、創業セミナーの開催、コワーキング事業等の創業支援を実施するものである。

一関市は平成26年6月に認定を受け、現在商工会議所や岩手県南技術支援センター等とともに連携して創業支援を進めている。一関市の創業支援の特徴は産・学・官連携による産業振興にある。ものづくりや技術開発をサポートする公益財団法人「岩手県南技術支援センター」、それからインキュベーション施設・貸し研究室の「一関市研究開発プラザ」、そして一関工業高等専門学校があり、月に一回「産学官イブニング研究交流会」を開き、意見交換・情報交換の場を持っている。

また本年7月～9月まで、「いちのせきちっちゃいビジネス開業応援塾 part1～やりたいことで起業する!～」と題した起業支援の連続講座(全9回)を開催されている。仙台市で23年から「ちっちゃいビジネス開業応援塾」を開かれている方を講師として呼び、小さなビジネスを対象とした、起業に関する初歩的なセミナーを企画したところ参加者の大半が30代であり、うち女性が6割で、その中から今年中に起業しそうな人が生まれているということであった。一関市としては今後若者や女性をどう起業に結び付けていくかが課題だと考えておられた。

一関市の創業支援事業計画は、今年の6月から始まったばかりなので、まだ成果としては現れてきていないが、糸島市と状況や課題など共通するところも多いので、今後もその経過に注目し、活かせるところは活かしていくべきだと考える。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

一関市は震災の被害を大きく受け、そこから立ち上がるために近隣自治体と協力し合いながら復興していこうという意味と、その本気度・必死度を強く感じた。それは本市としても大いに見習わなくてはならないと感じた。よりよい未来のために、市民の幸せのために我々市議会議員に何ができるのか、何をすべきなのか、今一度真剣に考え、必死に取り組んでいきたいと身が引き締まる想いがした。

また一関市は、本市と同じく産官学が共存し、その連携を大事にしている。それを効果的に産業振興に活かすために、「岩手県南技術支援センター」「一関市研究開発プラザ」「産学官イブニング研究交流会」などハード面でもソフト面でも様々な取組がなされている。それをそのまま本市に持ってくればいいということではないが、本市でもより一層産学官がつながり、新しい化学反応を起こすような仕組みづくりが必要だと感じた。

また女性や若者向けの起業支援は本市も今後より一層力を入れていくべきだと感じた。他市の成功例なども参考にしながらより柔軟な起業支援を行い、新たな産業や雇用を生み出していくことが課題だと感じた。